



Title	2023年 年次報告書
Author(s)	北海道大学大学院教育推進機構リカレント教育推進部
Citation	1-25
Issue Date	2024-03
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/91365
Type	report
Note	北海道大学大学院教育推進機構リカレント教育推進部が2023年に行った活動を記録した年次報告書。
File Information	Annual report 2023.pdf



[Instructions for use](#)

2023年 年次報告書

ANNUAL REPORT 2023



北海道大学
大学院教育推進機構 リカレント教育推進部

Advancement of Recurrent Education Division,
Institute for the Advancement of Graduate Education, Hokkaido University

2023年 年次報告書

ANNUAL REPORT 2023

Contents

リカレント教育推進部のビジョンとブランドプロミス および信条と行動指針	2
巻 頭 言	3
リカレント教育推進部、発足の経緯と2年間の実施概要	4
北大道新アカデミー	6
文部科学省「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」	
北海道大学人間知×脳×AI研究教育センター「AIと人間社会」プログラム	8
北海道大学リカレント教育実施体制の整備	10
リカレント教育推進部の理念等およびリカレント教育プログラムのロゴ作成	12
ウェブを用いた広報	14
キックオフシンポジウム	
学びの道は北へ、大海へ～北大が目指すべきリカレント教育とは～	16
北大道新アカデミープロモーションビデオ	17
北海道大学ホームカミングデー 2023 研究と共に、人の新たな可能性を開拓する ～北大が目指すべきリカレント教育とは～	18
地域と舞台をつなぐクリエイター育成事業	
演劇×学校～教育現場における演劇の可能性～	19
リカレント教育推進部 2023 ワークショップ Join us.	20
リカレント教育を行っている他大学へのヒアリング調査等	21
学内ヒアリング調査	23
2021～2023年度リカレント教育推進部年表	24
記事掲載	25

北海道大学

大学院教育推進機構 リカレント教育推進部



リカレント教育推進部のビジョンとブランドプロミス および信条と行動指針

リカレント教育推進部は、組織を発足するにあたり、2023年5月に組織のビジョン、ブランドプロミス、信条と行動指針を定めた（12～13ページ参照）。

ビジョン リカレント教育推進部が目指すもの、ゴール

研究と共に、人の新たな可能性を開拓する

ブランドプロミス リカレント教育推進部の受講者に対する約束

札幌農学校から引き継がれた開放的なキャンパスで、学びを重ね合わせ、新たな価値を共に探究する場を提供します

信条と行動指針 リカレント教育推進部の行動規範

信 条

真理を探究するマインドは、人の可能性を広げると信じている

行動指針

1. 感度の高いプログラムを提供するために感性を磨く
2. 試行錯誤しながら学べる環境をつくるために失敗を恐れない
3. 新しい教育のシステムを積極的に取り入れる
4. 学習者と教員・スタッフのネットワークを維持して、学びの継続に新たな価値を生み出す
5. 関わる全ての人への共感・尊敬を忘れず、何事にも力を合わせる



巻頭言



山本 文彦

北海道大学理事・副学長
大学院教育推進機構 機構長

北海道大学では、リカレント教育を推進するために、大学院教育推進機構の中に、リカレント教育推進部を設置し、学内外の多くの皆様にご協力いただきながら、種々の取組みを進めています。関係する皆様に改めて御礼申し上げます。

リカレント教育に対する社会のニーズは、かなり広範にあると考えています。そして学びたいと思う方々の目的もまた多様だと思えます。その上、無料で自由に視聴できる多くのオンライン講座等もあります。大学がどのようなリカレント教育を実施するのか、しっかりと考えなくてはなりません。

他方、大学内に目を向けると、なぜ大学がリカレント教育に取り組む必要があるのか、学生の教育や研究あるいは管理運営等の業務で忙しく、リカレント教育を担当する時間がない、という意見も多くあるのではないかと思います。

大学は、日本の教育システムの中の最後の段階として、高校を卒業した学生を受け入れ、社会に送り出す機能を果たしています。しかしこれだけが大学の役割ではありません。大学がどのような社会的役割を果たすべきなのかを考える過程で、大学として目指すべきリカレント教育の姿が見えてくるのではないかと考えています。

リカレント教育推進部は、こうした根本的な問いに向き合いながら、さまざまなプログラムを推進していきます。多くの皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

北海道大学は12の学部を擁する総合研究大学であり、その美しいキャンパスは観光地としても有名です。そしてすでにリカレント教育と呼べるプログラムが複数存在していました。私たちリカレント教育推進部はこれらの資源を活かし、貴重なノウハウをもつ先行プログラムから学び、支援していくとともに、新たなプログラムを立ち上げていきます。

その際、私たちは「研究 Research」をキーワードにしていきます。この言葉は、いわゆる研究室でのアカデミックな活動を指しているわけではありません。ひたすら価値ある知を探索する、そのための方法論を生み出す、自らの活動をメタ的に捉えて協働する、そういった活動を指す言葉であり、あらゆる学びの中心にある言葉なのです。つまり、北大のリカレント教育では、単に既存の今必要とされている知識を受け取るのではなく、主体的に学び、そのための新たなコミュニティを作り出すことを軸に据えていきたいと考えています。

プログラムにおいて重要なことは、北大だからこそ提供できる潜在的な社会ニーズに対応した先端的・学際的なプログラム内容、転用可能な学びの方法論、そして職場・現場に戻った後で周囲に学びを広げられる姿勢・技法です。そして忘れてはならないのは、仕事や生活と両立できる、プログラムを受けやすい制度・環境をつくっていきましょう。

これらを実現するためには、教員はもちろん、大学全体があらためて「教育」を再定義する必要があります。逆にいえばリカレント教育という新たな挑戦を通して、本来の大学の教育を取り戻すということかもしれません。従来の大学教育は、さまざまな学内外の既存制度、事務職等の支援といった基盤のうえで、教員は授業だけに専念すればよい、というものだったかもしれません。しかし、リカレント教育においてしばしば耳にする「社会のニーズへの対応」を重要視するならば、企画・広報・支援業務などの、教育プログラム本体に付随する、しかし学ぶ当事者にとっては本質的に重要な要素を一体的にとらえてプログラムをつくっていかざるを得なくなります。なぜならそれが社会や受講者のニーズを実感をもって知ることができる界面だからです。

このような理念のもと、人間知・脳・AI 研究教育センターを実施組織として開講した北海道大学リカレント教育プログラム (ReH) の第1弾が、2024年1月5日に開講した「AIと人間社会」プログラムです。やるべきことは山積していますが、北海道大学に再び集い、学ぶ皆様のために、スタッフ一同奮励努力して参ります。



川本 思心

北海道大学大学院教育推進機構
リカレント教育推進部 部長

リカレント教育推進部、発足の経緯と2年間の実施概要

現在、社会情勢や専門知識・技術はますます速く進展し、職に付いた後も継続的に学習することが個人として豊かな人生とキャリアをおくる上でも、そして活力ある社会を維持・発展させる上でも必要になっている。また、18歳人口の減少は従来の高等教育のあり方に再考を迫っている。このような状況において、大学におけるリカレント教育が注目されている。

北海道大学でもこの状況に対応するために、2021年6月からリカレント教育タスクフォースを立ち上げ、リカレント教育の方向性を議論した。そして2022年度4月に大学院教育推進機構にリカレント教育推進部を発足させた。以下が本学におけるリカレント教育の方針である。

【計画本文】 研究主導型の基幹総合大学としての強みや特色を活かし、現代社会に求められる能力を身に付ける教育プログラムを構築するとともに、ICTを活用した授業手法の導入などの取組を通して、社会人の学び直しの機会を拡充し、大学の知と産業界や自治体などの社会ニーズをマッチングした大学院レベルのリカレント教育を実施する。

併せて、企業、自治体等を対象とした組織単位でのリカレント教育を実施し、教育プログラムの受講者の規模の拡大と社会とのエンゲージメントの強化を図る。

【評価指標】

- (1) イノベーション創出に繋がる最先端の知見の提供と、それを活用するための能力開発を担う産業界のニーズに対応したリカレント教育プログラムを令和6年度までに構築し、令和7年度から実施する
- (2) 地方自治体などの行政上のニーズを踏まえた、地域の課題解決に資する問題発見能力や課題解決能力の開発を担うリカレント教育プログラムを令和6年度までに構築し、令和7年度から実施する

第4期中期目標・中期計画（2023年4月1日）より抜粋

国の方針や地域社会のニーズを踏まえた人材を育成するため、企業や自治体等と連携して知や技術に関わる高度なリカレント教育プログラムを提供するとともに、イノベーション創出や課題解決を担う人材を活用し、新たな知の循環を生み出す教育プログラムを実施する

HU VISION 2030（2023年7月）より抜粋

2026年度までの主なKPI

- ・「産」「官」向けに、ふたつのタイプのプログラムを開発
- ・4組織以上に対しプログラムを実施
- ・参画教員へのインセンティブに必要な収益を確保

北海道大学（大学院レベル）リカレント教育の方向性（2022年3月22日答申）より抜粋

本報告書は以下5項目について、2022年度のリカレント教育推進部の準備・立ち上げから、2023年度の体制構築・プログラム試行までの2年間のまとめである。

1. 既存プログラムのリカレント教育プログラムとしての集約（p.6-7）

北海道大学の既存のリカレント教育と呼べるプログラムを全学的に位置づけ支援するために、8プログラムを「北海道大学リカレント教育プログラム（ReH）」として集約した（次頁表）。うち7プログラムは各実施組織をリカレント教育推進部が適宜支援する形だが、2018年度より理系および文系部局が担当して実施してきた北大道新アカデミーについては、2023年度からはリカレント教育推進部による担当となった。なお公開講座は社会連携課の所掌である。

2. 新規リカレント教育プログラムの立ち上げ (p.8-9)

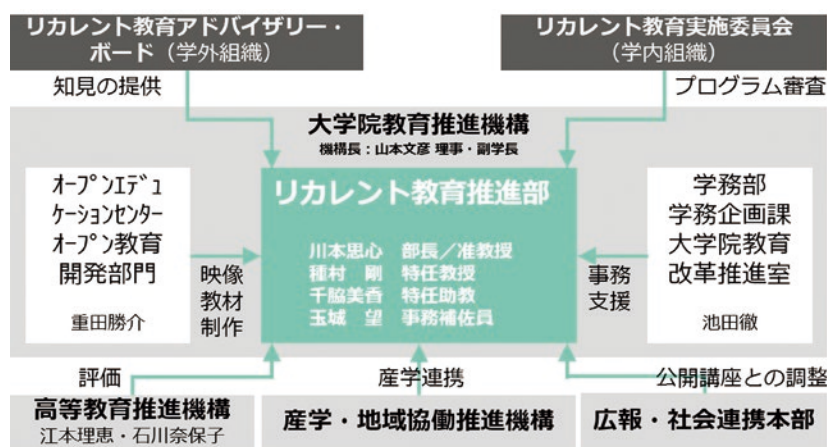
上記既存の8プログラムに加えて新規のプログラムとして、人間知・脳・AI研究教育センターによる「AIと人間社会」プログラムを1月から3月まで開講した。このプログラムは近年大きな話題となっているAIについて、哲学・心理学・情報学そして工学という異分野融合の観点から切り込むものであり、企業との連携によるプログラムである。

ReH (北海道大学リカレント教育プログラム) 一覧

種類	プログラム名(略称)	実施組織(略称)	募集および開講期間
一般教養型 教養を深め人生を豊かに	北大道新アカデミー	北海道大学・北海道新聞(リカレント教育推進部・道新文化センター)	募集:前期4月・後期8月 開講:前期5月初旬~7月中旬、後期9月初旬~11月下旬
	Hokkaido サマー・インスティテュート(HSI) extension/professional program in Japanese	学務部国際交流課	募集:3月~(選択科目により異なる) 開講:6月~10月
職能型 仕事に活かせる実践的な知識やスキルを学び、キャリアアップ	科学技術コミュニケーション養成プログラム(CoSTEP)	大学院教育推進機構 オープンエデュケーションセンター 科学技術コミュニケーション教育研究部門	募集:4月 開講:5月中旬~3月中旬
	プラス・ミュージアム・プログラム	文学研究院	募集:各企画ごとに登録 開講:7月~
	「AIと人間社会」プログラム	人間知×脳×AI研究教育センター(CHAIN)	募集:11月 開講:1月~3月中旬
専門職型 専門性を向上。受講に要資格・職歴	医療AI開発者養成プログラム(CLAP)【インテンシブコース】	医学研究院 画像診断学教室 医療AI開発者養成プログラム事務局	募集:4月~ 開講:選択科目により異なる
	動物医療センター卒後教育公開セミナー	動物医療センター	募集:適宜申込 開講:年6回開催
履修証明プログラム 修了時に文部科学省認定の履修証明書を付与	臨床医学の献体利用を推進する専門人材養成プログラム(CCRP)	北海道大学病院 医療機器開発推進センター 献体による臨床医学研究プログラム協議会事務局	募集:4月~6月 開講:適宜開講
	デスティネーション・マネージャー育成プログラム	国際広報メディア・観光学院	募集:1月 開講:4月上旬~2月上旬

3. 実施体制の整備 (p.10-11)

リカレント教育は、これまでの大学の役割や仕組みからは外れる点も少なくない。また持続的な実施のためには収益を確保する必要がある。円滑にリカレント教育事業を実施するために、学内外のリソースを活用した組織(下図)を構築するとともに、各種規程を整備した。



リカレント教育推進部組織図

4. 学内外への広報 (p.12-20)

新規事業であるリカレント教育プログラムの学内外の認知度を高めるため、ウェブサイト・SNS、シンポジウム、プロモーションビデオ、ワークショップ、イベントなどを実施した。

5. 調査のためのワークショップおよびヒアリング (p.21-23)

学内関係者のニーズや課題把握のためヒアリング調査を行うとともに、ネットワーキングのためワークショップを実施した。また、先行する大学を訪問しヒアリング調査を行った。



北海道新アカデミー

北海道新アカデミーは、2017年度に締結された北海道大学と北海道新聞社の包括連携協定に基づき、北海道大学と北海道新聞社の共同主催として2018年度から実施されている、北海道大学の教員による市民向けの講座である。最新の研究成果や時事に応じた研究内容を、広く市民に紹介することを目的としている。

本企画は、2023年度より本学のリカレント教育の柱の一つとしてリデザインされ、全学的な取り組みとして位置づけられている。企画運営は(株)道新文化センターとリカレント教育推進部が担当している。リカレント教育推進部は、部局を単位として講義を計画し、所属する研究者に講義の依頼を行っている。受講生は入学金(2,200円：以前に入学金を納めた者は不要)と受講料(26,400円：講義8回分相当)を道新文化センターに支払って受講する。2023年度前期は理系コースを工学研究院、文系コースを公共政策大学院が、後期については理系コースを獣医学研究院、文系コースを法学研究科附属法政研究教育センターが担当した。

北海道新アカデミー 2023年度前期

コース	【理系】工学研究院		【文系】公共政策大学院	
タイトル	北大工学研究の最前線 ～あなたの身近にある工学～		現代日本の中央・地方が直面する政策課題	
概要文	工学とは「人の役に立つ科学技術」です。今回のシリーズでは、北大工学研究院で行われている最先端の研究成果を紹介しながら、日常生活に役立つとともに社会に貢献する、工学の魅力に迫ります。		政策課題の先進地となっている北海道。今回のシリーズでは、中央省庁や政府機関などの第一線で活躍されている実務家教員の講義を交えながら、地方と中央そして日本をとりまく課題を公共政策の観点から考察します。	
時間／受講数	15：00～16：30(90分) 受講者数 43人		13：00～14：30(90分) 受講者数 39人	
日付	タイトル／講師名	概要文	タイトル／講師名	概要文
5月13日	多雪寒冷地の都市デザイン 瀬戸口 剛 教授	世界に類を見ない多雪寒冷地の北海道。工学研究を用いてデザインした新しい稚内駅などを紹介しながら、北海道ならではの建築や都市デザインについて考えます。	公共政策を考える視点 武藤 俊雄 准教授	私たちの生活や社会の状況に大きな影響を与える「政策」を理解し、対話するために必要な視点について解説します。
5月20日	人類の発展を“影”で支える 鉱山学とその未来 川村 洋平 教授	鉱山開発はしばしば社会悪とみなされるが、人類はその資源によって豊かな生活を送っている。その鉱山が直面する課題と未来！	国・地方の行政を見る視座 山本 直樹 教授	国や自治体の組織、活動、政治との役割分担などは実際にどうなのか、基本的な視座を身に付けることを目指します。
5月27日	陽子線治療のしくみと活用 松浦 妙子 准教授	陽子線治療はがん治療の身近な選択肢のひとつとなってきました。高精度な陽子線治療装置について、そのしくみや今後の開発についてご紹介します。	国・地方の公務員を取り巻く課題 山本 直樹 教授	行政活動を担う公務員。志願者減、専門職員不足、勤務環境、人材育成などの課題がある中で、対応策を考えます。
6月10日	金属材料の顔を覗く 米田 鈴枝 助教	身の回り金属材料は様々な顔(組織)を持っています。組織が変わると特性がどう変化するかお話しします。	日本における境界(ボーダー)：移民とジェンダーの視点から 池 炫周 直美 准教授	日本に存在する境界(ボーダー)について、特に外国人やジェンダーの観点から、その現状を共有し課題について議論します。
6月17日	北海道の公共事業について 内田 賢悦 教授	国民の税金を主要な原資とする北海道の公共事業を対象とし、公共事業評価の現状と課題について解説します。	介護保険制度の意義 田中 謙一 教授	諸外国にも注目される我が国の介護保険制度について、歴史、理念、ケア、論点など、意義を明らかにします。
6月24日	下水疫学による新型コロナの流行把握 北島 正章 准教授	感染流行状況を効率良く把握するツールとして注目されている「下水疫学」の最新の動向についてお話しします。	「地域包括ケアシステム」とは 田中 謙一 教授	介護保険制度の到達点である「地域包括ケアシステム」について、事例を示しながら、必要性や方向性を明らかにします。
7月1日	共創による地域社会課題解決への挑戦 佐藤 功紀 特任教授	古河電工との共創により、革新的触媒を用いた家畜ふん尿からグリーンLPガスを合成する取り組みについて紹介します。	国立公園への旅—その成り立ちと魅力、支える人々 中尾 文子 教授	全国に34、北海道に6ある国立公園。国立公園のしくみ、魅力、そしてそれを支える人々について語ります。
7月8日	科学技術に立脚した現代版「竹取物語」 佐藤 太裕 教授	竹を始めとする植物の驚くべき力学的機能を工学の視点で紐解き、新しい材料としての可能性について考えます。	野生生物について考える 中尾 文子 教授	個体数の増えている種、減っている種、分からない種、さまざまな野生生物の現状と政策について語ります。

*メイン会場は北海道大学クラーク会館、7/1、7/8：文系共同講義棟6番教室

コース	【理系】獣医学研究院		【文系】法学研究科附属高等法政教育研究センター	
タイトル	「動物のお医者さん」のその先へ		法のコンパス グローバル社会の新秩序形成に向けて	
概要文	北海道大学獣医学部は70年を越える歴史と伝統を持っています。今回の理系コースは、人間と動物、そして地球の環境の健康を総合的に考えるOne Healthの中核を担う、獣医学研究院の教員が講義を行います。人獣共通感染症やヒグマ問題、動物の冬眠のしくみなど、人と動物を取り巻く最先端の多彩な研究をご紹介します。		ロシアのウクライナ侵攻、グローバルサウスの勃興、気候変動、東シナ海の資源問題等、世界各地で生じている出来事は私たちの日常生活と地続きの関係です。今回の文系コースでは、法学研究科の研究者が、日々刻々とグローバルに展開していく国際社会の問題をより深く理解するための視座を提供する講義を行います。	
時間／受講数	15：00～16：30(90分) 受講者数 61人		13：00～14：30(90分) 受講者数 33人	
日付	タイトル／講師名	概要文	タイトル／講師名	概要文
9月2日	動物のお医者さんから地球のお医者さんへOne Healthが目指すもの 滝口 満喜 教授	動物のお医者さんから地球のお医者さんを目指す獣医学部のOne Healthへの取組みについてお話しします。	グローバリゼーションとアメリカの分断 会沢 恒 教授	ニュースなどで言われるアメリカの政治・社会の分断は、グローバル化に対する態度の差とも関連しています。このことを、近時の事例を挙げつつ議論します。
9月16日	ヒトと動物の共通感染症の発生要因・感染経路とOne Health 堀内 基広 教授	社会問題となった人獣共通感染症の発生要因や感染経路を比較しながら、One Healthの重要性についてお話しします。	グローバリゼーションと法秩序 尾崎 一郎 教授	国家を基軸とする法秩序が、いわゆるグローバリゼーションにおいていかなる課題に直面しているのか、それはどのように乗り越えられようとしているのか、検討します。
10月7日	ヒグマとはどんな動物か：正しく知ることからはじめよう 下鶴 倫人 准教授	北海道の豊かな自然の象徴であるヒグマ。道内各地ではトラブルが急増しています。その生態を学び、人との共存の道を考えます。	国際法とは何か 児矢野 マリ 教授	グローバル化した現代社会における、国際法の機能と限界について、国内法との関係にも留意しつつ、具体的な事例に触れながら解説します。
10月14日	人と動物の比較腫瘍学：がんを比べてわかること 青島 圭佑 講師	人も含めた様々な動物のがんの共通点と相違点を学びます。また、がんの比較研究の例として血管肉腫についてもお話しします。	グローバリゼーションとフランス社会 中村 督 教授	グローバリゼーションが進むなかで、今日のフランス社会がどのような問題に直面し、また、どのように変容を迫られているのかを、その歴史的特質を踏まえたうえで考察します。
10月21日	動物園・水族館の役割と繁殖への獣医師の関わり 柳川 洋二郎 准教授	動物園・水族館は野生動物種の保全の場としての役割があります。獣医師が繁殖に果たす役割を中心に話します。	グローバル化時代の社会民主主義 前田 亮介 准教授	この授業では、保守一党支配が例外的に及ばなかった戦後北海道の歴史を紐解くことで、グローバル化時代の社会民主主義政党について考えたいと思います。
11月4日	動物たちからのヒントを人の健康に役立てる：熱を作る不思議な細胞 岡松 優子 准教授	動物を対象とする基礎研究が人の健康維持に貢献する一例として、冬眠動物から発見された熱を生み出す細胞についてご紹介いたします。	法の視点から見る「チャイナリスク」 徐 行 准教授	中国法と中国政治に対する理解を深めて、「総体国家安全観」に基づく法の整備と運用によって、日本（ひいては東アジア）が直面している「チャイナリスク」を検討します。
11月11日	毒と動物の攻防 石塚 真由美 教授	我々の身の回りは「毒」であふれています。ヒトを含む「動物」と「毒」の攻防について、研究成果を解説します。	グローバル経済のための私法秩序の形成 曾野 裕夫 教授	国によって法律が異なることは、グローバル化した経済の円滑な運用の障害となります。そこで求められるのが「私法の国際的統一」です。その歴史・現状・課題についてお話しします。
11月25日	エキノコックスという寄生虫：その生態と北海道での歴史、そして彼らとのつきあい方 野中 成晃 教授	キツネからうつる寄生虫「エキノコックス」。北海道での生態や歴史を知り、どう向き合うかを考えましょう。	日本の人権保障の特徴 佐々木 雅寿 教授	人権保障の内容が比較的充実している諸外国と比較して、日本国憲法による人権保障にはどのような特徴があるのかを解説します。

*会場 9/2、9/16、11/04、11/11：理学部大講堂、10/07、10/14、10/21、11/25：文系講義棟6番教室

2023年度前期は理系コースを工学研究院、文系コースを公共政策大学院が、後期については理系コースを獣医学研究院、文系コースを法学研究科附属法政研究教育センターが担当した。

2023年度の受講生は前期82人（理系43人、文系39人）、後期94人（理系61人、文系33人）、前期と後期を合わせて合計176人が受講した。2022年度から受講者は1.34倍増加した。受講者の平均年齢は69歳であり、今後より若い世代の受講者を増やすことが求められる。



文部科学省「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」

北海道大学人間知×脳×AI研究教育センター「AIと人間社会」プログラム

文部科学省は2023年1月に令和4年度補正予算で「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」を計上した。本事業に対して学内6部局が申請の意向を示した。リカレント教育推進部はヒアリングを行い、北海道大学人間知・脳・AI研究教育センター（以下、CHAIN）と、北海道大学数理・データサイエンス教育研究センターの2件の企画を採択し、3月末に企画書を文部科学省に提出した。6月19日、上記2件のプログラムの採択が決定した。採択決定後、リカレント教育推進部ではCHAINの実施する「AIと人間社会」プログラムの実施支援を行っている。

1. 「AIと人間社会」プログラムの概要

本プログラムはオンデマンド講義で実施するコース1a「AI倫理」と1b「AIから広がる知：異分野融合」と3日間の集中講義で行われるコース2「エキスパートコース「AIと人間社会」」で構成されている。また本プログラムは株式会社アラヤとの連携で行われた。

コース1プログラム概要

コース	コース1a「AI倫理」		コース1b「AIから広がる知：異分野融合」	
期間／受講料	開講期間：2024年1月5日～3月22日 1講義90分／受講料：44,000円(税込)			
概要	AIが社会で用いられる際に生じる、倫理的・法的・社会的問題(ELSI)について、基本的な論点と近年の事例、未来の可能性について幅広く学習するコース。		AIと脳科学と人文社会科学が交差する地点に生まれてきた異分野融合的な知の新しい展開について幅広く学習するコース	
回	タイトル	講師	タイトル	講師
1	なぜAI倫理が問題になるのか？(AI倫理への導入)	田口茂(北海道大学)	新しい人間知—AIから広がる知の世界	田口茂(北海道大学)
2	新しいAI技術の現状と展望—AIの歴史と近年の発展	藤澤逸平(株式会社アラヤ)	意識と現実—AIとXRによる意識研究	鈴木啓介(北海道大学)
3	AIにおける差別と公平性	宮原克典(北海道大学)	人工知能と人工生命—生きているAIとは？	飯塚博幸(北海道大学)
4	AIと倫理 バイアス、倫理の実装、エンハンスメント	竹下昌志(北海道大学)	脳科学とAIの融合／ニューロテック	吉田正俊(北海道大学)
5	AIとデータガバナンス	濱田太陽(株式会社アラヤ)	心の哲学から見たAI	宮園健吾(北海道大学)
6	人工主体と共存の倫理学	宮原克典(北海道大学)	AIと共存する人間の心	宮原克典(北海道大学) 池田鮎美(北海道大学)
7	ひとと技術(設計者の倫理) 個人の自律とAIの自律—AIは新たな主体になるのか？	犬塚悠(名古屋工業大学) 成原慧(九州大学)	AIを通じて良い社会を作る	竹澤正哲(北海道大学)
8	AIと人間の未来：望ましい未来の姿	パネルディスカッション	感情を持つロボット	日永田智絵(奈良先端科学技術大学院大学)
9・10	Q&Aセッション (2月24日、3月2日)	田口・宮原・藤澤・濱田 宮原・竹下・犬塚・成原	Q&Aセッション (2月24日、3月2日)	田口・飯塚・吉田・鈴木 宮園・宮原・池田・竹澤・日永田

コース2プログラム概要

コース2「エキスパートコース「AIと人間社会」」		
開講期間：2024年3月8日～3月10日／受講料：165,000円(税込) 定員30名(コース1の申込必須) 場所：北海道大学札幌キャンパスFMIフード&メディカルイノベーション国際拠点		
対面でのアクティブ・ラーニングを通じて、より踏み込んだ問題意識と課題解決の視点の獲得を目指す。受講生とネットワークングも行える。		
回	内容	講師
1日目13:00～18:00	開会式 導入講義1・グループワーク1 全体討議とフィードバック1・懇親会(18時以降)	田口茂(北海道大学) 宮原克典(北海道大学) 宮園健吾(北海道大学)
2日目10:00～18:00	導入講義2・グループワーク2 全体討議とフィードバック2・グループワーク3	飯塚博幸(北海道大学) 猪ノ原次郎(北海道大学)
3日目10:00～13:15	グループワーク4・プレゼンテーション・クロージングセレモニー	

2. リカレント教育推進部による支援

「AIと人間社会」プログラムの実施にあたりリカレント教育推進部は、次の支援を行っている。なお、コース1で用いるe-learningコンテンツの制作は、オープンエデュケーションセンターオープン教育開発部門に開発を依頼した。

リカレント教育推進部による「AIと人間社会」プログラム支援一覧

制度設計	本学に所属するプログラム参加教員に報奨金を支給するための学内制度の設計。
知財管理	スライドおよびオンデマンド動画の知財化、各講師と著作権等利用許諾契約締結、教育コンテンツの著作権管理の実施。
企業協力要請	CHAINプログラムに関与している企業との調整、プログラムに協力することの合意策定。
募集要項作成	講義のプログラム設計への助言、募集要項の作成。
特設サイト設計	株式会社 monomode と契約締結、CHAIN 本体サイトとデザインを統一したプログラム特設サイトの設計のための助言。特設サイトは2023年11月1日に公開。
プログラム広報	Facebook、Peatixを用いたウェブ広報の展開。道内外の企業にDM発送による周知活動。企業の研修プログラムの1つとして、紹介依頼。学内組織や校友会と協力し、広報の実施。コエテコカレッジ記事作成支援 (https://college.coeteco.jp/blog/archives/16979/)。マナパス登録 (https://manapass.jp/portal/course/detail/8/2139640)。
コース構築	ELMS (北海道大学の教育情報システム) にコース1の moodle 設置。CHAINの担当者へのオンデマンドコース構築のための助言。
募集管理	募集管理のために Peatix と契約締結、募集に関する質疑に回答。コース申込者のリスト作成、募集管理の実施。コース1の受講者に ELMS の ID 発行の手続き、ID の入った着圧封筒の郵送作業。
受講者登録	ELMS にコース1の受講者の登録。
報告書作成	報告書を作成するための受講者アンケート作成。

3. 受講者の状況

2023年11月1日から12月20日の期間で受講生を募集した。また、コース2については2024年1月22日まで、コース1受講生に対して募集を行った。申込件数と申込人数は以下のとおりである。

コースごとの申込件数

コース	申込件数
コース1a	39件
コース1b	41件
コース2	11件
合計	91件

コースごとの申込人数

コース1のみ	人数	コース2*	人数	合計
コース1aのみ	20人	コース1aとコース2	3人	23人
コース1bのみ	22人	コース1bとコース2	3人	25人
コース1aと1b両方	11人	コース1a、1b両方とコース2	5人	16人
コース1のみ合計	53人	コース2合計	11人	64人

*コース2の受講にはコース1申込が必要

4. 定例記者会見の開催

プログラム広報の一環として、毎月1回、広報・社会連携本部が実施する定例記者会見で会見を行った。株式会社アラヤ 代表取締役社長の金井良太氏はオンラインで参加し「越境」をキーワードに、リカレント教育とCHAIN、異分野融合研究の共通点を説明した。11月25日『毎日新聞』朝刊20ページ（北海道版）に記者会見に関連した記事が掲載された。

記者会見概要

日時/場所	2023年11月16日 16:00～17:00 / 北海道大学 百年記念会館
タイトル	北海道大学人間×脳×AI研究教育センターとリカレント教育推進部が、企業と協力して社会人向けの教育プログラム「AIと人間社会」を開講
登壇者	川本思心 (北海道大学リカレント教育推進部部長) 田口 茂 (北海道大学CHAINセンター長) 金井良太 (株式会社アラヤ 代表取締役社長) : オンライン参加 藤澤逸平 (株式会社アラヤ 戦略企画部 リーダー)
司会	黒岩麻里総長補佐



北海道大学リカレント教育実施体制の整備

北海道大学では、第4期中期目標・中期計画（2022～2027年度）に大学の知と産業界や自治体などの社会ニーズをマッチングした大学院レベルのリカレント教育を推進することを掲げ、2022年4月に大学院教育の質の向上のため全学的に取り組む業務を統括するために新設した大学院教育推進機構にリカレント教育推進部を設置し、全学的なリカレント教育体制の整備、プログラム企画・構築、プログラムを実装する支援業務を一体的に実施している。

大学におけるリカレント教育の提供については、社会人や企業のニーズ把握、学内体制の整備、教職員確保、広報・周知等の課題が挙げられ、これらの課題を解決し、リカレント教育の開発や維持継続を促進するため、これまで以下の取組を行ってきた。

1. 2022年度

リカレント教育推進部に専任教員1名（2022年10月）、学内兼務教員3名、事務補佐員1名（2023年1月）を実務担当者として配置し、運営事務については学務部学務企画課大学院教育改革推進室が担当している。

実施体制の整備をすすめるなか、令和4年度補正予算による成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業が公募され、補助金事業の公募に際して学内各部局に照会を行い、6部局が申請の意向を示し、リカレント教育推進部によるヒアリングの後、3月開催理事会議での審議により、数理・データサイエンス教育研究センター及び人間知・脳・AI研究教育センターの企画について申請することとした。

2. 2023年度

6月に成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業に申請していた2件の企画について採択された。これにより、事業を促進するためリカレント教育推進部に専任教員1名（2023年8月）を配置し、企業連携の強化とコンテンツ作成に伴う知財関係処理を進めることが実現できた。また、リカレント教育プログラムの評価体制を強化するため兼務教員1名（2023年8月）を配置した。

10月には、運営組織の整備として、大学院教育推進機構に戦略的なリカレント教育を企画・開発する組織としてリカレント教育実施委員会を、また、学外の有識者からリカレント教育の開発に資する助言をうける仕組みとしてリカレント教育アドバイザー・ボードを大学院教育推進機構にそれぞれ設置する内規を制定した。

3. 持続的なリカレント教育プログラム運営に向けたリカレント教育実施に伴うインセンティブ措置

リカレント教育プログラムを実施するためには、第4期の事業目標として掲げているプログラムの質保証として、「教員へのインセンティブ」及び持続的運営体制として「将来的な自走化を見据えた利益確保、経営的収入への寄与」するための制度設計が必要となる。

なお、令和4年度補正予算事業で採択された「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」の申請要件も同様の内容が盛り込まれている。

4. 令和4年度補正予算事業採択における要件

- ・「教員のインセンティブ措置に関する学内規程等を整備」
- ・「継続的なリカレント教育実施のための財源確保、資金調達計画の策定」

この2つの要件を実装にあわせて、新たな受講料の算出方法を整備するため、総長裁定により「北海道大学リカレント教育プログラム要綱」を10月に制定した。

5. 要綱のポイント

(1) 受講料の算出方法【第5条】

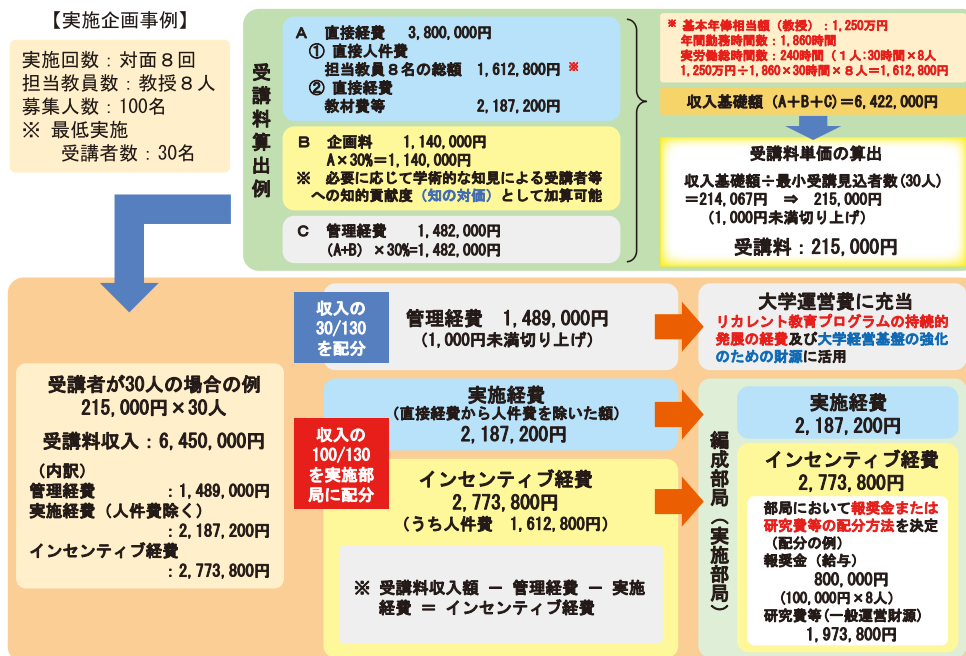
下記経費の合計額とし、最小受講見込人数で除した額を受講料単価とする（千円未満の端数切り上げ）

- ・直接経費：人件費を含む、実際にプログラム実施にかかる経費
- ・企画料：学術的な知見を用いたプログラム編成に要する経費
- ・管理経費：本学のリカレント教育等の推進を図るために必要な経費

(2) リカレント教育プログラムの実施に対する収入の配分等【第13条】

- ・収入は、管理経費、実施経費（直接経費から人件費を除いた額）及びインセンティブ経費に区分
- ・収入の30/130に相当する額が管理経費として、大学運営費に充当
- ・実施経費、インセンティブ経費は、収入額の100/130に相当する額を編成部局（実施部局）に配分
- ・インセンティブ経費は、報奨金（給与）または一般運営財源としての配分を選択することが可能

リカレント教育プログラム実施によるインセンティブ制度イメージ



北海道大学



リカレント教育推進部の理念等およびリカレント教育プログラムのロゴ作成

リカレント教育推進部の理念等およびリカレント教育プログラムのロゴ作成

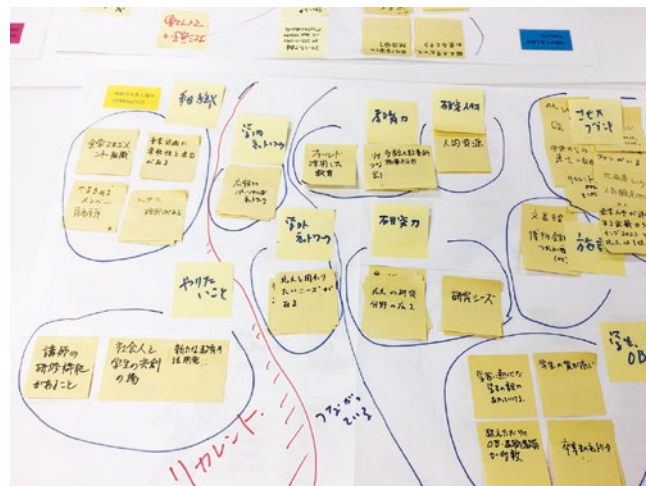
1. 理念・ビジョン・ブランドプロミスの作成

リカレント教育推進部は、組織のブランディングを定めるため 2022 年 10 月 21 日に教員スタッフより KD 主宰の鎌田順也氏に依頼を打診し、11 月 2 日に組織内で検討・承認を得た。2022 年 12 月より、鎌田氏と 7 回にわたって理念・ビジョン・ブランドプロミスを作成するための対面ワークショップを行った。ワークショップには、リカレント教育推進部の専任・兼任の教員スタッフ、事務スタッフが参加した。

理念・ビジョン・ブランドプロミスの作成スケジュール

回	日付	内容
1回	2022年12月9日	キックオフ
2回	2023年1月13日	SWOT分析
3回	2023年2月3日	リカレント教育推進部の価値の検討
4回	2023年2月22日	理念の構成要素の検討・ビジョンの検討
5回	2023年3月17日	理念(信条と行動指針)の検討
6回	2023年4月7日	ブランドプロミスの検討
7回	2023年4月19日	ブランドパーソナリティの検討・理念、ビジョン、ブランドプロミスのブラッシュアップ

1 回目のワークでは今後の方針を確認した。まず、組織が「こうあるべきである」とする根本になる考え方である「理念」と、将来の構想、展望である「ビジョン」を定める。次に、これらを踏まえ、対外的に組織の価値を示す「ブランドプロミス」を策定する。2 回目のワークでは SWOT 分析を用いて、リカレント教育推進部の内側と外側から見た強みと弱みをまとめた。3 回目のワークでは SWOT 分析の結果を踏まえ、当組織の価値を「強み・差別化要素」「機能的価値」「情緒的価値」の 3 点から検討した。



ワークショップの様子とSWOT分析の結果

リカレント教育推進部の価値

強み・差別化要素 信頼や評価の源泉となる事実。他者と違うところ。	機能的価値 顧客が得られる物理的・機能的な効果・メリット	情緒的価値 顧客が得られる感覚・気分など心理的・感情的な効用。
<ul style="list-style-type: none"> ・北大のキャンパスを使える ・専門分野を総合・横断させたプログラムを提供できる ・北方圏、スラブ・ユーラシア、・アイヌなど地の利を活かした分野 ・札幌農学校の伝統に由来する良いイメージ 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の人生に活かせる資質が身につく ・多様な学びが得られる ・自分の可能性を広げる人脈に出会える ・アクセスしやすい立地環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・北大で学んだという社会的信頼 ・北海道に行く理由になる ・第二の母校になる

ブランドパーソナリティと理想的(象徴的)な顧客像

ブランドパーソナリティ ブランドを人に例えたときの、人格・正確・個性・雰囲気	理想的(象徴的)な顧客像 ブランドに対して、賛同を得てファンになってもらいたい顧客像
<ul style="list-style-type: none"> ・探究心がある ・実直な中にもスマートさがある ・包容力がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・粘り強い人 ・向上心のある人 ・学びを楽しめる人

4回目のワークでは、リカレント教育推進部の価値定義の結果を踏まえ、理念の構成要素の検討とビジョンの検討を行った。理念の構成要素として、組織の行動規範を示す、信条・行動指針・ウェイを選択した(後日の検討で、信条と行動指針の2つに絞られた)。ビジョンとして「研究と共に、人の新たな可能性を開拓する」を定めた。ここで定まったビジョンを、キックオフシンポジウムで公開した。5回目のワークでは、信条と行動指針を、6回目のワークでは、ブランドプロミスを定めた。7回目のワークでは、ブランドパーソナリティを検討し、ビジョン・理念・ブランドプロミスのブラッシュアップを行った。

以上のワークショップの結果、本報告書冒頭に掲げたリカレント教育推進部のビジョン、ブランドプロミス、信条と行動指針が定められた。

2. リカレント教育プログラムのロゴ作成

リカレント教育推進部は、2023年8月2日より、KD 主宰の鎌田順也氏を迎え、北海道大学のリカレント教育全体を象徴するミーティングおよびロゴの制作に着手した。

北海道大学リカレント教育プログラムロゴ作成スケジュール

回	日付	内容
1回	2022年8月2日	ロゴ作成の事前ミーティング(オンライン)
2回	2023年8月17日	リカレント教育プログラムの名称提案、検討
3回	2023年9月25日	北海道大学リカレント教育プログラムのロゴの提案、検討

2回目のワークでは、ミーティング結果を踏まえ、鎌田氏から提示された複数の案を元に、名称の検討を行った。結果、本プログラムの名称を「北海道大学リカレント教育プログラム」と定め、略称をReH(アール・イー・エイチ)とした。後日に行った、ネイティブチェックを経て、プログラムの英語表記をRecurrent Education Programs in Hokkaido Universityと決定した。

3回目のワークでは、鎌田氏よりプログラムの名称を踏まえたロゴが2つ提案された。提案されたロゴを元に、話し合いを行い、クエスチョンマーク「?」とエクスクラメーションマーク「!」を組み合わせたロゴデザインおよびロゴタイプを採択した。





ウェブを用いた広報

リカレント教育では、従来のような学部入試・大学院入試とはまったく異なったターゲットにリーチする必要がある、広報は極めて重要な活動となる。一方で、リカレント教育プログラム（ReH）は、リカレント教育推進部が直接実施するとは限らず、既存および新規プログラムにはそれぞれの実施組織が存在するため、各実施組織は個別の広報を実施している。

このように、本学のリカレント教育は個別の活動に留まっており、全学的な取り組みとして可視化されていないという課題があった。また、各 ReH 実施組織には受講者獲得のために、より広報を推進したいという要望があった。そしてリカレント教育推進部としては、そもそも新規の組織のために学内外に存在を周知していく必要もあった。

そこでまず、学内外へのヒアリング（21～23 ページ参照）や、キックオフシンポジウム（16 ページ参照）、定例記者会見での発表（9 ページ参照）、学内ワークショップ（20 ページ参照）などを実施した。さらに、リカレント教育推進部本体と、各 ReH の活動に関する情報を記録し、広く広報するための SNS とポータルサイトを開設した。ポータルサイトは情報の集積、SNS はその拡散を役割として相補的に位置づけた。

1. SNS での広報

ウェブにおける広報の中心はポータルサイトになるが、各 ReH 実施組織との調整や、サイト設計等のため、その開設には時間を要する。そのためまず先行して SNS での広報を開始した。多くのユーザーを有する SNS は複数あるが、年齢層がリカレント教育の中心的ターゲットである 30 代以上であること、画像とある程度の量のテキスト掲載を両立できること、instagram との連携も可能であることなどから、Facebook を選択した。

2023 年 9 月 29 日に Facebook ページ「北大リカレント：ReH」を開設した（アドレス <https://www.facebook.com/hokudai.rec.office>）。このタイミングで開設した理由は、8 月に特任助教が着任しスタッフ体制がひと段落したためと、10 月から 11 月に、ホームカミングデー出展（18 ページ参照）、LIVE YELL project 共催（19 ページ参照）、定例記者会見、「AI と人間社会」プログラム募集開始（8～9 ページ参照）、学内ワークショップといった活動が連続したためである。

Facebook ページでは、リカレント教育推進部のスタッフやロゴ、活動をアップするだけでなく、各 ReH や学外関係組織の Facebook ページをフォローして情報収集の手段としても用いている。また、後日公開される ReH ポータルサイトの

記事としても後日転載することも念頭においた。現在は Facebook のみを運用しているが、今後は同じプラットフォームで掲載作業ができる Instagram での展開も検討している。



開設日のFB記事

2. ReH ポータルサイトの設計と公開

ReH ポータルサイトは、リカレント教育推進部および ReH の顔となる極めて重要な役割を担う。そのため、デザインは理念やロゴの制作を依頼した KD 社に依頼をし、統一感をもたせた。サイト訪問者は幅広い年齢層に渡ることが予想されるため、見やすさとすぐに廃れない安定的なデザインとした。

2023 年度 6 月頃から仕様策定のための検討をはじめ、サイト構成は、リカレント教育推進部の紹介、各 ReH の紹介といった固定的なページだけではなく、各 ReH の募集情報や、活動紹介などの記事も掲載できるようにした。さらに、北大の公開講座や大学院社会人入試のウェブサイトへのリンクも掲載することとした。これらはリカレント教育推進部の所掌範囲外ではあるが、学習機会を探している社会人にとっては、ReH と区別されることなく求められる情報だと考えられるためである。

ReH ポータルサイト（アドレス <https://rec.grad.hokudai.ac.jp>）は 2024 年 3 月に公開予定である。



サイトマップのワイヤフレーム(案)



キックオフシンポジウム

学びの道は北へ、大海へ～北大が目指すべきリカレント教育とは～

リカレント教育推進部は、2023年3月14日に、キックオフシンポジウム「学びの道は北へ、大海へ～北大が目指すべきリカレント教育とは～」を主催した。本企画は、今後の北海道大学のリカレント教育の方向性を示すことを目的に、大学院教育推進機構先端人材育成センター、同機構オープンエデュケーションセンターの協力の下、オンラインで開催した。本シンポジウムの広報活動として、2種類のフライヤーを作成し、学内と他大学のリカレント教育を行っている学内組織に広報活動を行った。

シンポジウムには全国の大学関係者、企業、北大同窓生など、約120人の参加があった。参加者からは、「北大がリカレント教育に本格的に取り組もうとする強い意思を感じるシンポジウムだったように感じます」など、本学のリカレント教育への期待を伺うことができた。資料として2023年2月に公開した寶金清博 北海道大学総長と山本文彦 北海道大学理事・副学長／大学院教育推進機構機構長のインタビュー記事を配布した。本資料は北海道大学学術成果コレクション HUSCAP に登録されている (<http://hdl.handle.net/2115/88739>)。



シンポジウムのフライヤー

キックオフシンポジウム



パネルディスカッションの様子



総括を行う川本リカレント教育推進部部長

キックオフシンポジウム「学びの道は北へ、大海へ～北大が目指すべきリカレント教育とは～」概要

2023年3月14日(火) 18:30～20:30 Zoomウェビナーによるオンライン 参加者 約120人	
進行	登壇者
開会挨拶「北大の目指すリカレント教育」	寶金清博(北海道大学総長)
情報提供1 「イノベーションに繋がるリカレント教育～企業経営とキャリア教育を踏まえて」	杉江和男(校友会エルム会長/元DIC 株式会社 代表取締役社長・取締役会長)
「大学院教育推進機構とリカレント教育」	山本文彦(北海道大学理事・副学長/大学院教育推進機構機構長)
情報提供2 「大人の学び」に大学が果たす役割とは何か	城取一成(株式会社 慶應学術事業会 取締役 学術事業部長/慶應丸の内シティキャンパス(慶應MCC)ゼネラルマネジャー)
情報提供3 「大人の学び」の支援を通して学んだこと～大人の学びの場をデザインするラーニングファシリテーターとは～	保谷範子(慶應MCCラーニングファシリテーター マネジャー)
登壇者によるパネルディスカッション	司会: 森順子(フリーアナウンサー/新渡戸カレッジフェロー)
総括・閉会挨拶	川本思心(大学院教育推進機構リカレント教育推進部部長)

協力: 大学院教育推進機構先端人材育成センター、大学院教育推進機構オープンエデュケーションセンター

配信: 株式会社オープンコンテンツサービス



北大道新アカデミープロモーションビデオ

2023年度より北大道新アカデミーを本学のリカレント教育の柱の一つとしてリデザインし、全学的な取り組みに位置づけるにあたり、リカレント教育推進部と道新文化センターの共同事業として、プロモーションビデオ（PV）を制作した。

2022年12月、札幌在住の映像作家・写真家の北川陽稔氏へPV制作を依頼した。2023年2月13日にクラーク会館大講堂で模擬講義の撮影を、2月27・28日には、北海道大学博物館、遠友学舎、獣医学研究院標本展示室、FMIフード&メディカルイノベーション国際拠点フューチャールーム、文学部図書室など札幌キャンパスの施設で撮影を行った。動画には、新田孝彦元北海道大学理事・副学長が出演している。また、多数挿入されているカットやイメージは、本学の研究者から提供を受けたものであり、北大の研究の多様さを表している。

本PVは4月3日にリカレント教育推進部公式YouTubeサイトで公開された。また、セイコーマート北海道大学のデジタルサイネージや、さっぽろ地下街ポールタウン入口のHILOSHI ビジョンなどでも展開を行った。



PVに出演した新田孝彦元北海道大学理事・副学長

北大道新アカデミープロモーションビデオ概要

撮影協力 (50音順、敬称略)	青木茂、(株)エンターリム、化学反応創成研究拠点 (WPI-ICReDD)、黒岩麻里、広報課 学術国際広報担当、工学研究院宇宙環境システム工学研究室、GEOGRAMS 伊藤広大、獣医学研究院解剖学教室、獣医学研究院標本展示室、電子科学研究所 知能数理研究分野、フード&メディカルイノベーション国際拠点、文学部、北海道大学総合博物館、北方生物圏フィールド科学センター、山本宏子、理学部生物科学科 (生物学)
出演	新田孝彦、yura (株式会社ドンクエンタープライズ)
制作	北海道大学大学院教育推進機構リカレント教育推進部、(株)道新文化センター
企画制作	川本思心、種村剛 (以上、リカレント教育推進部)、haptics Inc.
演出・撮影・編集	北川陽稔 (haptics Inc.)
Production Manager	富士原舞・矢田奈々帆 (以上、haptics Inc.)



北海道大学ホームカミングデー 2023 研究と共に、人の新たな可能性を開拓する～北大が目指すべきリカレント教育とは～

9月30日、リカレント教育推進部は、北海道大学主催、北海道大学校友会エルム共催で実施する、北海道大学ホームカミングデー2023において「研究と共に、人の新たな可能性を開拓する～北大が目指すべきリカレント教育とは～」と題したブース展示を行った。本展示の目的は、ホームカミングデーに足を運んだ同窓生に向けて、リカレント教育推進部の活動と本学が実施している社会人向け教育プログラムを紹介することである。

ブース展示は教員スタッフ3名がそれぞれ立ち合い、ブースの訪問者に本学のリカレント教育プログラムについての説明を行った。ブースを訪れた来場者は23名であった。ブースでは、北大道新アカデミーのプロモーションビデオを上映し、本企画のアウトリーチを行った。

また、ホームカミングデーに合わせて制作したフライヤーなどを来場者に配布した。フライヤーの表面には、リカレント教育推進部のロゴがあしらわれている。裏面には、リカレント教育推進部のビジョンとブランドプロミスの他に、2023年度に実施されている、北海道大学のリカレント教育プログラムの一覧をまとめている。本展示は、当初17:00まで実施する予定であったが、他の展示の終了時間に合わせて15:00で撤収を行った。



ホームカミングデーでブース出展を行ったスタッフ

北海道大学ホームカミングデー 2023 リカレント教育推進部出展概要

タイトル	研究と共に、人の新たな可能性を開拓する～北大が目指すべきリカレント教育とは～
日時	9月30日(土) 9:00～15:00
場所	北海道大学学術交流会館ロビー
参加費	無料
参加者数	23人
概要文	リカレント教育推進部は札幌農学校から引き継がれた開放的なキャンパスで、社会人の学び直しの場を提供します。北大の行っている社会人向け教育プログラムを紹介します。



地域と舞台をつなぐクリエイター育成事業

演劇×学校～教育現場における演劇の可能性～

2023年度、リカレント教育推進部は、JAPAN LIVE YELL Project in HOKKAIDO 2023「地域と舞台をつなぐクリエイター育成事業 演劇×学校～教育現場における演劇の可能性～」(以下、演劇×学校)に共催として関わり、本事業を運営した。JAPAN LIVE YELL Project in HOKKAIDO 2023は、2023年度に北海道地区で実施されている、文化庁文化芸術振興費補助金によるプロジェクトの活動名称であり、演劇×学校を含めた7つの事業で構成されている。プロジェクトの実施主体は札幌演劇シーズン実行委員会である。演劇×学校事業は、1回のシンポジウムと3回のワークショップ企画で構成されている。

シンポジウム「なぜ、演劇で子どもたちは変わるのか～演劇教育の成果と課題～」

日時・会場：10月7日(土) 13:00～16:00 / 北海道大学高等教育推進機構5講義棟S1教室 参加人数：53人	
進行	登壇者
開会の挨拶	樋泉実(北海道大学 産学・地域協働推進機構 客員教授)
第一部 基調講演 なぜ、演劇で子どもたちは変わるのか	いしいみちこ(兵庫県立芸術文化観光専門職大学講師)
第二部 事例紹介	西村雄一(洞爺湖町立洞爺中学校校長) 小西泰輔(立命館慶祥中学校・高等学校教諭) 種村剛(北海道大学リカレント教育推進部)
第三部 ディスカッション	ファシリテーター/清水友陽(北海道演劇財団芸術監督)
閉会の挨拶	種村剛(北海道大学リカレント教育推進部)

シンポジウムには道内だけではなく道外(奈良、大阪、福島、宮城)から教育関係者(小中学校・高校教員、大学教員、行政)、学生・大学院生、演劇・文化芸術関係者といった様々な分野から53人が参加した。リカレント教育推進部は、事業の広報活動、会場の提供、シンポジウムの情報提供者として関わった。



報告を行う種村とワークショップの様子(写真提供：札幌演劇シーズン実行委員会)

ワークショップ企画「演劇と学校をつなぐ～頭とからだで学ぶ演劇教育のいま～」

日時/会場	タイトル	講師	参加人数
10/8(日) 10:00～16:00 TKPカンファレンスセンター	ドラマティチャーの授業と実践	いしいみちこ (兵庫県立芸術文化観光専門職大学講師)	24人 見学4人
11/12(日) 10:00～16:00 北大クラーク会館大集会室1	体験!「なってみる学び」～演劇的手法で変わる授業と学校～	渡辺貴裕 (東京学芸大学教職大学院准教授)	24人 見学1人
11/19(日) 10:00～16:00 北大クラーク会館大集会室1	自分や現場に活かすインプロ(即興演劇)体験	絹川友梨 (桜美林大学芸術文化学群演劇・ダンス助教)	29人 見学1人

ワークショップでは、道外から演劇教育の専門家を招き、演劇教育を体験的に学び直す機会を提供した。リカレント教育推進部は、会場の提供に協力した他、ワークショップ企画を参与観察し、報告書の作成を担当した。報告書は2024年1月に刊行された。



リカレント教育推進部 2023 ワークショップ Join us.

リカレント教育推進部は11月22日に北大の教職員向けのワークショップを開催した。リカレント教育推進部による学内の教職員向けのワークショップは今回が初めてである。ワークショップにはリカレント教育に関心のある教職員23人が参加し、本年度新たに制度設計が行われた料金規定や、リカレント教育の実施体制などを学んだ。また、本学で行われているリカレント教育について3人の教員から、活用している国の制度やリカレント教育をやって良かった点などの事例発表が行われた。

イベントの後半では、リカレント教育を行う際の課題と解決策を参加者同士がグループになり話し合いを行なった。このグループの話し合いでは、「大学で行うリカレント教育にニーズはあるのか」や「リカレント教育の受講生に対する価値や評価は」、「運営資金の問題はどうする」など、リカレント教育を提供する側や、リカレント教育を受ける側の視点からの課題が検討された。今回検討した課題を、今後、学内の制度設計やプログラム内容に反映させていく予定である。

また、学内向けのワークショップは参加者からの要請もあり次年度以降も継続して行う予定である。

ワークショップ概要

タイトル	リカレント教育推進部 2023 ワークショップ Join us.
概要	リカレント部の活動内容を知ってもらうと共に、社会人の学び直し（リカレント教育）に関心のある教職員の課題や活動を通じ、北大のリカレント教育について考える時間を共有する。
目的	北大内にいるリカレント教育に関心があるが何から始めていいのかわからない教職員や、従来の枠組みでリカレント教育を行い感じている課題などの共有の場を提供し、北大教職員がリカレント教育を大学の使命である教育、研究、社会貢献の全てに当てはまるものだとして認識し、リカレント教育推進部の支援体制の理解増進に務める。
日時	2023年11月22日(水) 18:30～20:30
場所	北海道大学オープンイノベーションハブ エンレイソウ
参加人数	23人



課題を共有したグループワーク



たくさん出た課題



制度設計の内容を発表する川本部長



リカレント教育を行っている他大学へのヒアリング調査等

リカレント教育推進部は2022年度に発足した組織である。そのためリカレント教育プログラムの実施・運営について、先行する大学に比べて経験が浅く、相対的に十分な知見を持っていないのが現状である。2023年、リカレント教育推進部は、今後の運営の参考にするために、他大学が行っているリカレント教育の状況についてのヒアリング調査や、社会人教育を行っている施設の見学、リカレント教育に関する意見交換などを行った。また、他大学や組織が実施しているリカレント教育プログラムをスタッフが実際に5件受講し、リカレントプログラムのフィールドワークも行った。このような調査活動は今後も継続的に行っていく予定である。

慶應丸の内シティキャンパス (慶應MCC)

日時	2023年3月6日(月) 13:30 ~ 15:00
場所	慶應MCCキャンパス (東京都千代田区丸の内二丁目5番2号三菱ビル10階)
対応者	城取一成氏 (株式会社 慶應学術事業会 取締役 学術事業部長 / 慶應MCCゼネラルマネジャー)、保谷範子氏 (慶應MCCラーニングファシリテーター マネジャー)
参加者	川本思心、種村剛
概要	リカレント教育推進部のキックオフシンポジウムの打ち合わせをかね、三菱ビルにある慶應MCCのキャンパスを訪れた。受講生同士の学びのネットワーク作りに貢献する慶應MCCのラーニングファシリテーターのしくみや、『夕学(せきがく)講演会』の試みについてうかがった。東京駅から直結する立地条件は、社会人の受講を容易にするものである。東京駅を望む窓からの景色も美しく、高級感のある社会人の学びの場の印象を得た。
リンク	慶應丸の内シティキャンパス : https://www.keiomcc.com/

WASEDA NEO

日時	2023年3月7日(火) 9:30 ~ 11:00
場所	早稲田大学日本橋キャンパス (東京都中央区日本橋1-4-1 日本橋一丁目三井ビルディング 5階)
対応者	長谷川亮太氏 (社会人教育事業室)
参加者	川本思心、種村剛
概要	WASEDA NEOは、日本橋キャンパスで展開する早稲田大学の社会人教育の拠点。東京駅近くのビジネス街である立地の良さを活かし、ビジネスパーソンへの学びと交流の場として活用されている。ビジネスピックをメインとしたリカレント・リスキリングを目的とした各種セミナー、プログラムを展開するために、平日夜、土曜日を主な開講日と設定している。
リンク	WASEDA NEO : https://wasedaneo.jp/

大阪大学 社会技術共創研究センター

日時	2023年7月6日(木) 10:00 ~ 11:30
場所	ナレッジキャピタル (大阪府大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪北館)
対応者	水町衣里氏 (大阪大学社会技術共創研究センター准教授)、西川晃弘氏 (大阪大学大学院 / 大阪大学MOOCプロジェクト学生スタッフ)
参加者	川本思心
概要	大阪大学ステューデント・ライフサイクルサポートセンターと社会技術共創研究センターは2022年に共同で「ビジネスパーソンのためのELSI入門—データ利活用編—」を制作しgaccoで開講した。その背景、実施体制や課題等についてお話をうかがった。
リンク	「ビジネスパーソンのためのELSI入門—データ利活用編—」 : https://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/mooc/2022/07/elsi-gacco.html

関西大学 梅田キャンパス : KANDAI Me RISE

日時	2023年7月6日(木) 15:00 ~ 16:00
場所	関西大学 梅田キャンパス : KANDAI Me RISE (大阪府大阪市北区鶴野町1-5)
対応者	財前英司氏 (関西大学梅田キャンパス スタートアップ支援マネージャー)
参加者	川本思心
概要	関西大学はかつて夜間学部があり、その伝統を引き継いで2016年に梅田キャンパスが開かれた。起業の支援、コワーキング施設の運営、社会人のリカレント教育を3本柱とし、施設1階はTUTAYAとSTARBUCKS COFFEE、2階以上にはスタートアップ支援窓口、異業種コワーキングサロン、キャリアセンター、大小のセミナー室を備える。
リンク	関西大学 梅田キャンパス : https://kandai-merise.jp/



関西大学 梅田キャンパス : KANDAI Me RISEの外観

小樽商科大学との意見交換

日時	2023年8月10日(木) 10:30～12:00
場所	北海道大学事務局2号館
参加者	江頭進氏(副学長総務・財務担当、商学研究科長、付属図書館長)、北川泰治郎氏(教授グローバル戦略推進センター(CGS)産学官連携推進部門副部門長)、高橋智氏(特定専門職URA)、河崎智之氏(特定専門職UEA) 山本文彦(北海道大学理事・副学長)、川本思心、千脇美香、種村剛、池田徹、川崎直、リカレント事務補佐員
概要	小樽商科大学が進めている、UU構想(ユニバーサル・ユニバーシティ構想)、HUA(北海道ユニバーシティアライアンス)、および北海道の自治体の学びへの意識を高めることを目的としたローカルコンソーシアムの展開状況について情報共有を行った。合わせて、オンデマンドの教育コンテンツの作成や利用、今後のリカレント教育の協働展開についての意見交換を行った。
リンク	小樽商科大学グローバル戦略推進センター： https://www.otaru-uc.ac.jp/cgs/

東京工業大学社会人アカデミー

日時	2023年12月15日(金) 13:30～15:00
場所	東京工業大学田町キャンパス キャンパス・イノベーションセンター(東京都港区芝浦3-3-6)
対応者	妹尾大氏(東京工業大学社会人アカデミーアカデミー長)、周娟氏(東京工業大学助教)、陪席：内田幸代氏(学院等事務部 環境・社会理工学院業務推進課課長)、坂本桃子氏(田町環境・社会理工学院事務グループ長)、中園千春氏(田町環境・社会理工学院事務グループスタッフ)
概要	東京工業大学は他大学に先駆け、社会人向けのリカレント教育を行っている。特に製造中核人材育成講座は、「現場の高度技能とボーダーレスな先端技術を統合して、新技術・新製品を開発できる人材を育成することを目指している」プログラムであり、同大の強みを生かした内容になっている。また、近年、他大学と一緒にリカレント教育プログラムを立ち上げ、エンジニアとクリエイターと一緒に新たな価値の創造を行うプログラムも開講している。
参加者	川本思心、千脇美香、種村剛
リンク	東京工業大学社会人アカデミー： https://www.academy.titech.ac.jp/

上智大学プロフェッショナル・スタディーズ

日時	2023年12月15日(金) 16:00～17:30
場所	上智大学四谷キャンパス(東京都千代田区紀尾井町7-1)
対応者	森田浩一氏(上智大学Sophia Future Design Platform推進室 主幹)、川瀬崇氏(同事務長)
概要	上智大学のリカレント教育プログラムは、法人企業向けに企業会員を募り、アドバイザーパートナー制度を導入している。アドバイザーパートナー会員制度では、企業側のニーズを踏まえたプログラム内容の構築への関与や講座を受講した受講生のアルumnナイを作り、ネットワークの構築にも取り組んでいる。
参加者	川本思心、千脇美香、種村剛
リンク	上智大学プロフェッショナル・スタディーズ： https://www.sophia-professionalstudies.jp/ Sophia Future Design Platform推進室： https://piloti.sophia.ac.jp/jpn/sfdp/



上智大学を訪れたスタッフ

多摩美術大学 TUB (Tama Art University Bureau) 訪問・見学

日時	2023年12月16日(土) 13:00～14:00
場所	東京ミッドタウン・デザインハブ(東京都港区赤坂9丁目7-1 ミッドタウン・タワー 5F)
概要	多摩美術大学 TUBが東京ミッドタウン・デザインハブで行っている、TAMA DESIGN HIGH SCHOOLを見学した。TAMA DESIGN HIGH SCHOOLは、第一線で活躍するクリエイター、教育関係者、研究者等から誰でも無料で講義を聴講できる設計となっている。講義と同時に展示を行う設定は、リカレント教育のデザインの参考になると思われる。
参加者	千脇美香、種村剛
リンク	多摩美術大学 TUB： https://tub.tamabi.ac.jp/



学内ヒアリング調査

2023年度、リカレント教育推進部は大学内で実施されている社会人向け教育プログラムの整理に着手した。学内のヒアリング調査を通じ、学内実施組織と連携を深め、より効果的な社会人向け教育プログラムの構築に寄与することを目指している。

ディスティネーション・マネージャー育成プログラム受講者

日時・場所	2023年5月16日(火) 18:00-21:00 北海道大学高等教育推進機構棟1階N159
内容	リカレント教育プログラム受講者に対するヒアリング

北水同窓会

日時・場所	2023年6月29日(木) 16:30-17:00 北海道大学函館キャンパス講義棟1番教室
内容	学内連携についての意見交換

水産科学研究所

日時・場所	2023年6月30日(金) 10:00-11:45 北海道大学函館キャンパス会議室
内容	CREEN人材育成プログラムに関するヒアリング

広報課、広報・コミュニケーション部門

日時・場所	2023年8月7日(月) 13:50-15:00 北海道大学事務局広報課事務室前会議室A
内容	学内連携についての意見交換

国際広報メディア・観光学院

日時・場所	2023年8月10日(木) 9:00-10:00 北海道大学メディア・観光学事務部会議室301
内容	ディスティネーション・マネージャー育成プログラムに関するヒアリング

社会連携課

日時・場所	2023年8月22日(火) 13:00-15:00 北海道大学FMI棟2階ミーティングルーム
内容	学内連携についての意見交換

医学研究院

日時・場所	2023年8月24日(木) 13:00-14:00 医学研究院 画像診断学教室
内容	医療AI開発者養成プログラム(インテンシブ)に関するヒアリング

国際交流課国際交流企画担当

日時	2023年8月24日(木) 16:00-17:00 高等教育推進機構棟2階N270
内容	Hokkaidoサマーインスティテュート(HSI)に関するヒアリング

農学研究院 北海道ワイン ヌーヴェルヴァーグ研究室

日時・場所	2023年8月31日(木) 10:00-11:00 オンライン
内容	履修証明プログラムに関するヒアリング

産学・地域協働推進機構

日時・場所	2023年9月1日(金) 10:00-11:00 北海道大学北キャンパス3号館2階
内容	学内連携について意見交換

触媒科学研究所

日時・場所	2023年9月12日(火) 11:00-12:00 北海道大学創成研究棟4階
内容	触媒高等実践研修プログラムに関するヒアリング

文学研究院

日時・場所	2023年9月12日(火) 13:00-14:30 文学部306室
内容	プラス・ミュージアム・プログラムに関するヒアリング

医学研究院

日時・場所	2023年9月22日(金) 10:30-11:30 オンライン
内容	臨床医学の献体利用を推進する専門人材養成プログラムに関するヒアリング調査

獣医学研究院

日時・場所	2023年9月22日(金) 14:00-15:00 オンライン
内容	動物医療センター卒業教育セミナーに関するヒアリング

公共政策大学院

日時・場所	2023年9月25日(月) 10:00-11:00 オンライン
内容	地方議員・公務員向けサマースクールに関するヒアリング調査

産学・地域協働推進機構

日時・場所	2023年9月27日(水) 13:00-14:00 FMI国際拠点
内容	学内連携について意見交換

北方生物圏フィールド科学センター

日時・場所	2023年10月6日(金) 11:00-12:00
内容	学内連携について意見交換

産学・地域協働推進機構

日時・場所	2023年10月13日(金) 13:30-15:00 高等教育機構棟2階N270
内容	地域イノベーションプロデューサー塾・アドバイザー塾に関するヒアリング調査

施設部施設企画課

日時・場所	2023年10月27日(金) 9:00-10:00 高等教育推進機構棟1階N162
内容	学内連携について意見交換

北海道大学東京オフィス

日時・場所	2023年10月27日(金) 11:30-12:30 オンライン
内容	学内連携について意見交換

北方生物圏フィールド科学センタープログラム視察

日時・場所	2023年11月17日(金)・18日(土) 七飯淡水実験所
内容	リカレント教育に関する意見交換・演習視察



2021～2023年度リカレント教育推進部年表

2021年度	事項
6月28日	第1回大学院リカレント教育タスクフォース 以降第2回(7月12日)、第3回(8月2日)、第4回(12月14日)、第5回(1月25日)を開催
2月24日	第6回大学院リカレント教育タスクフォース。リカレント教育の方向性(答申)案確定
2022年度	事項
4月1日	北海道大学大学院教育推進機構にリカレント教育推進部発足 初代部長 川本思心 理学研究院准教授、兼務教員として、重田勝介 情報基盤センター准教授(当時)、江本理恵 高等教育推進機構准教授(当時)を配置、事務スタッフとして、川崎直 大学院教育改革推進室室長、池田徹 大学院教育改革推進室
4月28日	学内ニーズ質問紙調査を実施(回答期間5月20日まで)
10月1日	種村剛特任教授着任
2月1日	事務補佐員着任
2月7日	北海道大学が目指すリカレント教育～担当責任者に聞く(1)～山本文彦 理事・副学長インタビュー記事公開
2月14日	北海道大学が目指すリカレント教育～担当責任者に聞く(2)～寶金清博 総長インタビュー記事公開
3月6-7日	東京ヒアリング調査(慶應丸の内シティキャンパス、WASEDA NEO)
3月14日	キックオフシンポジウム「学びの道は北へ、大海へ～北大が目指すべきリカレント教育とは～」開催
3月28日	YouTubeチャンネル開設(【ReH】北海道大学リカレント教育推進部)
2023年度	事項
4月3日	北大道新アカデミー PV YouTubeにて公開
4月19日	ビジョン「研究と共に、人の新たな可能性を開拓する」決定
5月1日	さっぽろ地下街ポールタウンHILOSHIビジョンにて北大道新アカデミー PV (15秒版) 放映開始
5月13日	北大道新アカデミー 2023年度前期講座開講 理系コース：工学研究院 文系コース：公共政策大学院(～7月8日)
6月19日	北海道大学人間×脳×AI研究教育センター「AIと人間社会」プログラム、文部科学省「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」に採択
7月6日	大阪ヒアリング調査(大阪大学、関西大学梅田キャンパスKANDAI Me RISE)
8月1日	千脇美香特任助教着任、兼務教員として石川奈保子高等教育推進機構准教授を配置
8月17日	北海道大学リカレント教育プログラム(ReH)の名称決定
9月2日	北大道新アカデミー 2023年度後期講座開講 理系コース：獣医学研究院 文系コース：法学研究科附属高等法政教育研究センター(～11月25日)
9月25日	北海道大学リカレント教育プログラム(ReH)のロゴデザインおよびロゴタイプ決定
9月29日	Facebook開設(北大リカレント：ReH)
9月30日	「北海道大学ホームカミングデー2023」ブース出展、ReHフライヤー配布
10月1日	リカレント教育実施委員会、リカレント教育アドバイザーボードを設置する内規を制定 受講料算出にかかる「北海道大学リカレント教育プログラム要綱」制定
10月7日	共催「演劇×学校～教育現場における演劇の可能性～」開催(10月8日、11月12・19日に関連WS実施)
11月1日	「AIと人間社会」プログラム受講生募集開始、特設WEBサイト公開
11月13日	コエテコカレッジ byGMOにて「AIと人間社会」プログラム記事掲載
11月16日	第7回定例記者会見「AIと人間社会」プログラムの開講を発表
11月17-18日	七飯淡水実験所 リカレントプログラム視察
11月22日	学内ワークショップ「リカレント教育推進部2023ワークショップJoin us.」実施
12月6日	環境展示会「エコプロ2023」東京ビックサイトにてReHフライヤー配布
12月15-16日	東京ヒアリング調査(東京工業大学、上智大学)、施設見学(多摩美術大学)
12月20日	「AIと人間社会」プログラム募集終了
1月5日	「AIと人間社会」プログラム コース1aおよびコース1b開講
3月5日	リカレント教育EXPO2024視察
3月8-10日	「AIと人間社会」プログラムコース2開講
3月22日	「AIと人間社会」プログラム閉講



記事掲載

2023年のリカレント教育推進部の活動は以下の媒体に掲載された。

北海道大学ウェブサイト

- 「北海道大学が目指すリカレント教育～担当責任者に聞く (1) 山本文彦 理事・副学長」(2023/2/7), <https://www.hokudai.ac.jp/news/2023/02/1-15.html>
- 「北海道大学が目指すリカレント教育～担当責任者に聞く (2) 寶金清博 北海道大学総長」(2023/2/14), <https://www.hokudai.ac.jp/news/2023/02/2-61.html>
- 「北大道新アカデミー告知動画を公開」(2023/4/3), <https://www.hokudai.ac.jp/news/2023/04/post-1207.html>
- 「【北大道新アカデミー】2023年9月に4名の研究者が講義を実施」『リサーチタイムズ』(2023/10/31), <https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/2023/10/202394.html>
- 「【北大道新アカデミー】2023年10月に6名の研究者が講義を実施」『リサーチタイムズ』(2023/11/21), <https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/2023/11/content-1.html>
- 「【北大道新アカデミー】2023年11月に6名の研究者が講義を実施」『リサーチタイムズ』(2023/12/22), <https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/2023/12/2023116.html>

『北大時報』

- 大学院教育推進機構「大学院教育推進機構リカレント教育推進部が北大道新アカデミー告知動画を制作」『北大時報』828 (2023年3月), p16., https://www.hokudai.ac.jp/pr/pdf/jihou_23_3.pdf
- 大学院教育推進機構「大学院教育推進機構リカレント教育推進部がキックオフシンポジウム「学びの道は北へ、大海へ～北大が目指すべきリカレント教育とは～」を開催」『北大時報』829 (2023年4月), p16., https://www.hokudai.ac.jp/pr/pdf/jihou_23_4.pdf
- 大学院教育推進機構「大学院教育推進機構リカレント教育推進部が2023年度前期北大道新アカデミーを開講」『北大時報』833 (2023年8月), p19., https://www.hokudai.ac.jp/pr/pdf/jihou_23_8.pdf
- 大学院教育推進機構「大学院教育推進機構リカレント教育推進部 ブース出展」『北大時報』836 (2023年11月), p15., https://www.hokudai.ac.jp/pr/pdf/jihou_23_11.pdf
- 社会共創部広報課「令和5年度第7回目 定例記者会見を開催」『北大時報』837 (2023年12月), p17., https://www.hokudai.ac.jp/pr/pdf/jihou_23_12.pdf

寄稿

- 種村剛「もう一度、北海道大学で学んでみませんか?～リカレント教育推進部が目指す社会人の学び～」北海道大学東京同窓会会報『FRONTOER』63 (2023/8/20) pp28-29.

新聞記事

- 谷口拓未「北大24年1～3月開講 AIを考える 対面・オンライン30日締め切り」『毎日新聞』(2023/11/25) 朝刊(北海道)20面.

HUSCAP

- 学びの道は北へ、大海へ: 北大が目指すべきリカレント教育とは: 配布資料・フライヤー ., <http://hdl.handle.net/2115/88739>

北海道大学大学院教育推進機構リカレント教育推進部 2023年 年次報告書

発行 2024年3月

発行者 北海道大学大学院教育推進機構リカレント教育推進部

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 北海道大学高等教育推進機構 1F

TEL 011-706-5252 / 011-706-6870

e-mail rec_office@ml.hokkaido.ac.jp

印刷 株式会社アイワード

